

## 「平庭の麓から」

文責：久慈市立山形小学校 校長 角谷 隆章

学校+保護者+地域=子どもの健やかな成長

「学び高め合う子」、「心豊かな子」、

「強くたくましい子」の育成をめざして

### 【なぜ僕らは働くのか～君が幸せになるために考えてほしい大切なこと～】

ちょっと前に買って読んだ本です。まえがきに「この本は、将来の働き方について中学生や高校生に考えてもらおうと願って作られました」とありますが、私は、小学校の高学年や大人でも、ためになることが多く書かれていると感じています。あとがきには「悩んだとき、元気になりたいとき、ヒマなとき、この本を本棚の端から取り出して読んでみる。そんなふうに、あなたのそばにこの本を置いてもらえたら、この本に携わった者としては望外の喜びです。これから社会に出る若者たち、本気で仕事に向き合う大人たちが、自分らしく働き、幸せに生きられることを願って」とありますので、きっとその通りで、幅広い年代の人たちに読んでもらうことを想定して書かれた本なのでしょう。

山形小学校の子どもたちにもぜひ手にとって読んでもらいたいので、『校長先生のお薦め図書』として、先月、図書室に寄贈しました。特に、高学年のお子さんには手にとって読んでほしいですし、可能なら、お家の人にも読んでもらい、家族の会話のきっかけにしてほしいと思っています。

今日は、同書の第4章『幸せに働くってどういうこと?』から、私たち大人にも当てはまると思われることを抜粋して掲載します。「働き方改革」が叫ばれている昨今、職種に限らず、自分はどうかをちょっと考えてみてもいいかと思います。(監修：池上彰 Gakkenより1,500円+税で発売。以下抜粋)

#### 仕事がうまくいく人 そうでない人

どんな仕事であれ、仕事がうまくいく人はどこか魅力的で尊敬できるところがあるものです。ここではどんな性格の人がうまくいくか、その逆にどんな性格だとうまくいかないかという、一般的な例を挙げたいと思います。悪い例に当てはまらないように、気をつけないといけませんよ。

＜うまくいく：仕事熱心で向上心がある＞      ＜注意：やる気がない＞

向上心や熱意があり、学び続ける人は仕事がうまくいきます。やる気がない人は成功しにくいです。

＜うまくいく：責任感をもって仕事をする＞      ＜注意：人任せ、人のせいにする＞

自分の仕事を人に任せたり、ミスを人のせいにしたりする人はダメな人。自分の仕事に責任を持ち、ミスをしたらちゃんと謝る、それが正しい姿勢です。

＜うまくいく：よく考えて行動する＞      ＜注意：考えず場当たりに行動する＞

何も考えずに行動すると多くの人に迷惑をかけます。仕事で成功する人は、よく考えた上でなるべく早く決断をくだします。

＜うまくいく：人への思いやりがある＞      ＜注意：自分さえよければよい＞

仕事は自分一人ではできません。一緒に仕事をする人たちがどうしたらやりやすいかを考えられる人は、自分が大変なときにも手を差し伸べてもらえます。

＜うまくいく：謙虚で感謝を忘れない＞

＜注意：横柄で成功すると調子に乗る＞

「実ほど頭を垂れる稲穂かな」という言葉の通り、成功を収める人ほど、謙虚で人への感謝を忘れません。成功して態度が悪くなる人は、うまくいかなくなるとまわりに人がいなくなるでしょう。

＜うまくいく：うまくいかなくても引きずらない＞

＜注意：クヨクヨ悩み続ける＞

うまくいかなくても「ケセラセラ（なるようになる）」の精神で、引きずらないのは大事です。人間関係の悩みも「自分に合わない人もいるよね」と、開き直れるぐらいが上手な生き方でしょう。

＜うまくいく：できないことは仲間に頼る＞

＜注意：完璧な人間であろうとする＞

能力が高い人ほど人に頼るのが下手だったりします。自分ですべて出来なくても大丈夫。苦手なこと、一人ではどうにもできないことは、人をお願いできるようになりましょう。 以上

## 【「父の日」・「母の日」 豆知識】

今年、今月 20 日（日）が父の日です。次の日曜日ですね。胸に赤や白のカーネーションをつけて、お母さんの深く温かい愛情に感謝する「母の日」にくらべ、「父の日」は 1910 年アメリカの J. B. ドット夫人の提唱で始められました。「母の日」は、1914 年にウィルソン大統領によって制定。レディーファーストのアメリカの家庭では、日常、父の方が冷遇（？）されがちということで、まず父親に感謝する日ができ、「父の日」があつて「母の日」がないのは不合理だということで 4 年後に「母の日」ができたということです。「母の日」が先にできて、その後に「父の日」が設けられたような気もしますが、実は逆だったのです。日本では、アメリカと反対に、母に感謝する日が昭和 23 年にまず生まれ、昭和 25 年から 6 月の第 3 日曜日を「父の日」にすることになったそうです。日本とアメリカ、まったく逆の現象とは面白いですね。

## 【ともに学ぶ】

本校では、炭学習、田植えと稲刈り、内間木洞の観察、カジカ調査などなど、地域の自然や産業から多くを学べる体験的な学習を取り入れています。私も参加する機会があるのですが、炭については仕事の奥深さに感心させられましたし、冬に訪れた内間木洞の氷筍は、その美しさに感動しきりでした。

ちょっと前のことですが、ある先生の週録（担任の授業記録）に「川にいるカジカをはじめてみました」と書かれていました。「そうなんだ…」と妙に納得しつつ、私が小学生の頃は、盛岡の街中を流れる中津川にも、岩をそっとよければ、カジカがいて、よく“カジカとり”をして遊んだことを思い出していました。本校教職員の年代は幅広く、子どものころの時代背景や、これまでに重ねた経験も違いますので、このようなことがあつて当然です。ただ、一つ言えるのは、今、山形小学校に勤めているから、我々も多くを学ぶことが出来ているということです。これは、とても幸せなことだと感じています。

私は、自分が生まれた地域を知ることは、生きていく上での原点になると考えています。郷土愛なり、‘ふるさと愛’なりは、自分が生まれた地域を知るから芽生えてくるのだと思います。山形町の将来に思いを馳せると、これらの体験的な学習は、とても有意義なものだと思っています。ハウレンソウや短角牛、白樺美林に、闘牛、スキー、子どもたちにはこれからも多くを体験し、多くを学んでほしいですし、私自身もともに学び、自分のこれからの生き方やふるさとについて考えていきたいと思うのです。

この文章を膨らませたものが、6/1 付岩手日報の日報論壇に、「郷土愛育む体験学習」というタイトルで掲載されました。